

## 第三二章 救いの確信

### I 救いの確信の重要性

クリスチャンの経験において、キリストに対する信仰によって自分が救われたという確信は、恵みとキリストの知識において成長する全過程にとって不可欠のものである。

確信は体験できるものであり、現在の救いに自信を持つことに関係している。

救いの確信は経験の三つの主要な局面に依存している。①キリストによって備えられている救いの完全性の理解。②クリスチャンの経験からの確証。③聖書の救いの約束を信仰によって受け入れること。以上の三つである。

### II 救いの本質の理解

救いの真の確信と言えるものに欠くことができないのは、十字架上の死においてイエス・キリストによって達成された事実の明確な理解である。救いとは人間に対する神のみわざであり、人間の側の功績にかかわりなく、全く神の恵みによっている。それゆえ、キリストが自分のために死んでくださり、キリストを信じる者なら誰にでも提供される完全な救いを与えてくださったことを理解するなら、キリストを救い主として信じるという条件を満たすことによって直ちに救いの確信を持つことができる。

たましいの救いを構成しているさまざまな神の力によるみわざの中で、神からの新しいいのちの付与は聖書の中で最も強調されている。このいのちは神からの賜物であり、(ロマ 6:23、ヨハネ 10:28) キリストから与えられ、キリストがクリスチャンの内に住まわれることであり、(Iヨハ 5:11、12) したがってキリストが永遠であられるように永遠のいのちなのである。

### III クリスチャンとしての経験からの確証

キリストが内在されているという事実に基づいて、クリスチャンは自分が信仰に立っているかどうかを自分で判断するように命じられている。(IIコリ 13:5) 信仰によって救われた結果としてのキリストにある新しいいのちは、いくつかの主要な点において現れる。

- 1 神が私たちの天の父であるという知識は、クリスチャンが持つ貴重な体験の一つである。(マタイ 11:27、ヨハネ 17:3)
- 2 祈りが新鮮な現実となることは、確信へ導くもう一つの確かな経験である。(エペソ 5:18-19、ロマ 8:26-17、ユダ 20)
- 3 聖書を理解する新しい能力は、救いに関連したもう一つの重要な経験である。(ヨハネ 16:12-15、Iヨハ 2:27、ルカ 24:32、45)
- 4 罪の罪深さを新しく認識することは、救われた者の正常な経験である。(詩篇 119:11)
- 5 救われていない人に対する新しい愛が生まれる。(IIコリ 5:14-15、19、ロマ 10:1、参照ロマ 9:1-3)
- 6 救われた人々のためにも新しい愛が経験される。(ヨハネ 13:34-35、Iヨハ 3:14)

7 救いの最高の根拠はクリスチャンの内にキリストの性格が現されることである。  
(ガラ5：22-23、ピリ2：5)

8 クリスチャン生活の諸経験が積み重ねられて、キリストへの信仰を通して救いの自覚をもたらす。

#### IV 聖書の約束の真実性を受け入れること

1 聖書が真実であり、その救いの約束が確かに成就されるという信頼は、救いの確信にとって不可欠である。

2 真に自分自身をキリストへの信仰と、神の約束に任せただどうかを疑うことは、キリスト教信仰にとって破壊的である。

3 神の真実を疑うことも真の確信の経験にとって致命的である。

したがって、確信はキリストを信じる者のための神の完全な救いの本質を理解することにかかっている。救いの確信はまた部分的にはクリスチャンとしての経験の中に見いだされるかもしれない。救いの確信は神の約束の確実性と、それらの約束に従って信仰によってキリストに自分を委ねたことの確実性にかかっている。このように自分を委ねた者は神の真実により頼むことができる。神は約束を必ず守られ、決して偽りを言うお方ではないからである。